

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校
新聞部
生徒意見体験
発表会
最優秀賞号



↑発表会当日の撮影風景。

工業教育フェア生徒意見体験研究発表会 最優秀賞受賞!

やまぐちるい あじかわともき うのこういち
山口月くん 安地川智樹くん 宇野浩一くん

工業教育フェア生徒意見体験研究発表会とは、県内の工業高校や総合学科で工業系列を有する学校が参加する発表会だ。3年生で1年間取り組む課題研究の成果を各校の代表グループが発表する。今年度は年明けの新型コロナウイルス感染拡大に伴い急きょWEB開催となり、2月5日(土)に

5校8グループが参加して行われた。本校代表としては電気科と環境化学科の2グループがエントリーし、3年4組の山口月くん、安地川智樹くん、宇野浩一くんのチームが見事、最高賞である最優秀賞を獲得した。プロ顔負けの映像を制作した3人の軌跡を紹介しよう。

NEXT 学校紹介映像 本編を”特別公開”

↑プレゼンのスタート画面。時は11年後(2033年)、舞台は八工TV。出演するのは安地川キャスターと映像クリエイターとして活躍する山口くん。リアルタイムでテロップまでいれての配信に、審査員の先生は「収録したものか?」と信じられない様子だったという。「ビジュアルが現代的であること」が主たる制作意図であるため、10分間のプレゼンもとことんこだわった。発表ではこの後に制作映像(7分)が流れる。

「モーショングラフィックス(視覚表現)を用いた学校紹介映像の制作」

制作にあたってこだわったのは「素材は使用せず1から作る」こと。技術を身に着けるための努力は惜しまなかった。また、ターゲットである中学生が知りたい内容であること、ビジュアルが現代的であることを心がけた。

小学生の頃から映像制作に興味があった山口くん。3年前に本校のオープンキャンパスで先輩が制作した学校紹介映像を見て印象に残っていたことから、山口くんの声かけで3人の共同作業が始まった。

主な担当は、山口くんが後半実写映像と全般。安地川くんはモーショングラフィックス、宇野くんがアイコン制作だ。

作業量はハンパない。なにせ素材を使わない。全てを一からつくる。リーダーの山口くんの制

作スケジュールに合わせて、深夜3時まで作業、あるいは朝4時起きで作業していたこともあると安地川くんは言う。「リーダーが一番頑張ってるのはわかってたから」一方宇野くん曰く「ここまで大変だとは。着手したことを少し後悔した」との本音も出る中、高度なレベルで作品が出来上がったのは3人の努力のたまものだ。

かかった費用もかなりのものだ。学校のPCではスペックが全く足りない。PCを持っていなかった宇野くんは約10万円で購入。3人ともアドビライセンス契約をし、山口くんはカメラの周辺機器も追加購入した。バイトで稼ぎ機器を買い、作業に没頭した。

課題研究担当の川嶋先生は語る。「一(いち)言えば十(じゅう)理解してやってきた」「前日



←メイキング風景。剣道着姿の生徒に撮影するため、台車を使用した。少しでもなめらかに。

機材

カメラ
CANON EOS R, DJI Mavic air, DJI Tello

ソフトウェア
Blackmagic DaVinci Resolve, Adobe Premiere Pro

レンズ・周辺機器
CANON RF70-200mm F4 L IS USM, DJI RSC 2, CANON RF50mm F1.8 STM, K&F Concept Variable ND filter ND2-ND32

部活動
どんな部活がある?
実績

↑山口くんのカメラは高2の頃、バイト代を貯めて買ったもの。今回の撮影では新たに広角レンズやフィルタ・ジンバル(手ぶれ補正機材)を購入した。



撮影
カラーグレーディング

アイコン・イラスト制作

ソフトウェア
Adobe Illustrator, Adobe Photoshop

←宇野くん制作のアイコン。東京を参考に、本校の学科や部活のムードを表現した。

絵コンテ

HACHIMAN TECH

モーショングラフィックス制作

レイヤーの作成
キーフレームの設定
イージングの設定
プリコンポーズ

にしたアドバイスを、翌日予想以上のクオリティで仕上げてくる」「対応が高校生のレベルではなかった」と大絶賛だ。

夢を持って好きなことに取り組む姿が素晴らしかった 川嶋先生

全て自分たちで作ったプロ顔負けの紹介映像は近日本校HPにUPされる。映像は進路に悩む中学生にむけて、本校を魅力的にアピールしてくれる最強ツールとして活躍するだろう。在校生もぜひ見て欲しい。

そして数年後、3人がそれぞれの夢を叶えてバリバリ活躍する姿を見るのが楽しみでならない。

